



Issue on June 1, 2013

もりこう

VOL.43

発行所：大森学園同窓会
 大田区大森西3-2-12
 大森学園高等学校内
 お問い合わせ：TEL 03(3762)7336(代)
 FAX 03(3766)0314
 Mail：info@moriko-kai.jp
 URL：http://www.moriko-kai.jp/
 発行責任者：大谷正勝
 編集責任者：広報委員会
 題字：山崎正男先生

祝 同窓会(もりこう会)発足 60周年

学園の変貌を語る

撮影 須山貴史
 インタビュー 渡辺 亮
 勝島 憲三

1 この学園に着任された時からのこと

井上先生 大学の就職課に求人票があつて、ちよつと行つてみようかと気楽に面接を受けに行きました。

今のように、校舎はこんなに立派ではなかつたですよ。第一印象はどうでしたか？

井上先生 私学はあんなものでしょう。

当時は、まだ木造の校舎が残っていました。二階建ての校舎で…。それでも初代理事長にすれば、体育館を造つた次に、4階建の鉄筋校舎を大手のゼネコン会社が造つてくれたもの凄く感激されていました。30周年の時に木造が完全に無くなって鉄筋になりました。

佐藤先生 職員室が1階になった校舎が一番いい建物でした。

井上先生 2階に3年生がいて、勝島さんが入学する前の生徒達はその上の階にいました。職員室の上には小さい図書室がありましたね。

第一印象は面白い学校だと思ひました。うるさい先生はいましたけど、家庭的だし面白い学校でした。結局居座つちやんだから。

私が学生当時先生から、定時制(夜間)があつてあれがいいアルバイトだったよ！なんて話を伺つたことがありますか？先生方は定時制で指導したご経験ありますか？

井上先生 2日間、定時制の講師をしまし

た。それが絶対条件だったので。新人教師は土曜日が担当でした。半日で帰れるはずなのにきつかったです。



常任理事(前副校長) 佐藤雄之 副理事長(前校長) 井上皓司

でも定時制の生徒は大人ですから、実習もどんどん自分で出来る。私が入つた時から2〜3年は定時制の生徒数のほうが多かつたですね。ちよつと勝島さんが入つた年には9クラスにもなりました。

今の生徒と違って、私達は1クラス57名ぐらいでした。教室は後ろが通れなくなるほどでした。

佐藤先生 全然通れないよ。最盛期は64〜

65名だからね！

井上先生 ベビーブームが終つて、就職係をしてた昭和40年代は企業からの求人が多くて大変でした。「どうして毎日学校へ顔を出して求人しているのに、生徒を我が社へくれないのか」と文句言われてね。そんな時代でした。今では考えられないですけど。

佐藤先生は森工を卒業されてそれから？

佐藤先生 先ず会社に入りましたが、あまりにも同族会社で、自分達だけでやっているような雰囲気でした。社長が引つ張っていたのだけど、重役に直接「こつこつ会社じゃやっていけないから」と言いにいったら「どこを直したらいいか？」と聞かれて、「ここを直せば少しは変わるのでは？」と提案したら「そこまでは直せないな」と言われてしまったので、それなら辞めますと。それで、直接森工時代の担任だった田島先生のところに行つたら、それじゃあうちが空いているから来いよ！と言つてもらつて。それで助手として森工に入りました。

確か私達も教わりましたけれど、先生方は山田先生と緒に夜間の大学に通われていたと伺ひました。

佐藤先生 昭和36年！

井上先生 36年に入つたのか！大学もか！

東京オリンピックが39年ですね。

佐藤先生 だから4年間で大学を修了して、結局助手と言つても、その当時は先生がいなくて助手をやっていました。

井上先生 先生がいなかつたんです。須田先



生がいたでしょう。教員と言うのは僕が来た時も須田先生なんですよー松村先生もいたんだけど、松村先生は病気休職中でいなかったから。

佐藤先生 あと原先生。

井上先生 原先生は専任ではなく講師みただけでしたけど。

—— 国語の先生ですよ。

佐藤先生 いや電気の先生でいたんですよ。

佐藤先生 実験の方は2人しかいないんだもの。

井上先生 だから僕は座学をやらされてあの当時座学で24時間やらされたんですよ。

一番最初に時間割表をもらって24時間。今は担任持っていないでも18時間ぐらいだね。

佐藤先生 定時制も入れたら大変だよ。

井上先生 定時制が1週間に4時間ずつ2回ありますから8時間ですよ。だから大変なんですよ。

—— 昼間の授業が終わってからはしばらく来るまで待って、来てからだと22時頃ですよ。それまでずっと学校に缶詰ですよ。

井上先生 まあ若かいかね、どっつてことなかったけれども。

佐藤先生 色々大変だった。でも定時制の生徒は実験を教えるところとんできちゃうんだよね。けれど、私下げの実験器具だったか

ら、ダイヤル型などは技術がいるから思うようにいかないんだよ。そうゆう時に私達がきちつとやると、今まで普通通りにやっていたのにそんなのが直つてないとか…びっくりさせられたけれど。

—— 定時制の生徒達は会社では普通の器具を使っていたのではありませんか？

佐藤先生 会社ではね！ところがうちの学校は私下げ品だから…

井上先生 ひどいものですよーだから経済的にも学校は大変だったと思いますよ。

今は東京都からの助成とか色々ありますけれどもあの頃は無かったですから。昭和50年頃から助成制度が成立して、やっと少しづつ良くなつてきました。

—— 例えば12カ月の月謝の内、一カ月分ぐらいが助成でまかなつたなどの話を聞いた事があります。

井上先生 本当に大変だったと思いますよ。

佐藤先生 実験器具なんかは本当にそこらへんにある物で実験の題材を考えました。例えばバッテリーの自由放電実験とかも実際に使っているバッテリーを取り外してきてそれでやるかとか。

—— あるもので工夫するわけですね！

佐藤先生 そついつ面では、我々も「これがないから出来ない」とか言わず、そこにあるもので工夫しちゃう。だからスイッチなんかは手作り。思い出してもらつとわかるけれどベニヤで作つたりとか。

—— 製図の授業の時にはドラフターといつものが入りまして、自分たちで丁定規を使つてやつていたときから比べれば、これは楽

だと思ひました。私達の時は入つて無かつたですかね？

井上先生 無いですね！

佐藤先生 ずつと後ですよ！

井上先生 僕は最初の頃は丁定規を皆に渡して、がたがたしてないかとか。

—— だけど本当に物を一つずつ揃えていくだけでも、(人数分揃えるといつことは大変な事でしたよね。

佐藤先生 最初はね丁定規と三角定規は買わされたの。それを持ち帰るのが面倒くさいからと言つて卒業の時にみんな寄付しちゃうて、製図室にある定規を掛ける台に鍵をかけて貸すようにしたんだよね！

—— その頃は、柔道が必修でありましたから柔道着と丁定規を持って帰るのが苦痛で…。私達が生徒の時はロッカーを造つてくれとお願ひしましたが、学校にそんな余裕があるわけ無いですよ。

井上先生 それは場所が無いよ！今の人数なら40人だからいいけど、40個造ると65個造るとじゃ大違い。大変なんだよ！

佐藤先生 あの頃はトレーシングペーパーに、烏口で最後はすみ入れをやつたじゃない。そついつ製図器具まで、今はこんな大きな15点とか20点セットだけれど、あの頃は3点セットでも買つのが大変だったからね。



井上先生 烏口と言つのは、またいい壺が必要になるから。

—— だけれどあれで良くやりましたよね。

佐藤先生 素晴らしい！

烏口は線の太さを調整するんですよ！

佐藤先生 砥石でといてね。皆せつかく書いた製図なのに、烏口で線を入れる時になつて三角定規をずらすとズーとなつちゃうんだよ。

井上先生 一発で駄目だからね。

佐藤先生 あの頃の生徒は忍耐強かつたね、そついつ面では！

井上先生 昭和50年代ぐらいになつてから少し落ち着いてきたんじゃないかな。

佐藤先生 実験なんか道具が少しづつ入つて来ていかにも工業高校になつたよね。

井上先生 これはどこの私学を見ても同じ様です。同業他社を見ても、やつぱり50年代にならないと。早いとこで40年代半ばかな。

—— 日本もまだ高度成長が始まつたばかりですからね。

佐藤先生 結局、東京オリンピックから良くなつて来ていますね。

井上先生 就職が出来ると言つてことで工業科への希望者が多かつたんですね！

佐藤先生 あの頃は9クラス。時には4000人ぐらゐの募集が来ていましたよ。

—— 建物(教室)さえあればいくらでも生徒は集められたから。今とは違つて。

井上先生 あんまりうるさくなかつたですからね。今みたいに補助金なんかはもらつていなかったからいくらでも出来た。

佐藤先生 入試は午前中と午後、次の日午前中と午後：そういう感じで行っていたからね。入試だけでも大変な…。そういう時期を通過できていたから。

—— それから比べると、今の学園では先生が「一番」苦勞されていますね。

井上先生 今はいいですね。まあ、ただ「いいです」と言っても、そういう面では別の苦勞がありますよ。

—— 今度は生徒をいかに受験させるとかでしょうか。

井上先生 生徒集めの問題と、保護者とのつながりでしょうか。

あの頃は保護者と教育や学校のあり方がシックリ合っていたんです。この頃はそつでない保護者もいるので中々難しいですね。そう言う意味では、苦勞しているのではないかな。特に若い先生が1年経って担任を持った時に「なんだ若僧が！」と相手にしてもらえないとか。

—— 今、ある程度のクレームはありますか？

井上先生 来ますよ！

佐藤先生 昔は「先生から怒られたらそれはもつともだ」という感じの保護者がいっぱいいたけどね。

—— うちの親もそつでしたね。「怒られるのはお前が悪いのだ」と。

佐藤先生 それで生徒もしょうがないなあ、あきらめてしまうのだけれど。

—— 今はそのついでにはないですか？

井上先生 無いですね。かえって本人は分かっています。保護者が分かってくれないなんて事もありませんね。

—— 小学校などでは「うちの子が真ん中に写っていない」と怒ってくるなどがあるとかそつ言うのを聞くこと…

井上先生 高校だから自分で希望して入学したからそれ程ではないけれども、二つ間違えるとそれに近いものが出てきてしまうかもしれません。

2 それで森工から大森学園に変わるわけですね！

佐藤先生 平成17年！

井上先生 結局、一番は生徒募集の問題！

—— やはり普通科を作らないと生徒が集まらないと？

井上先生 都内私立の工業科が、どんどん募集しなくなってきた。

—— 名前も変えちゃったり。

井上先生 それは何故かと言つと…例えば駒場や新小岩とか多摩の方とかその辺りの大きい学校でさえも就職が段々無くなつて来ました。やっぱり生徒の何倍かの求人があるのと敵しいということで、子供たちの志向も普通科志向になつてきている。そうするとあんまりいい生徒が集まらない。いい生徒が集まらないからあんな学校に行きたくない。どんどん悪くなる。そんな循環になつてしまつたらと。

佐藤先生 それで井上校長の時に『大森学園高等学校』の実現を考えました。

井上先生 あれは決断したんです。本当に悩みました。本当に自分が舵を切つちやつていのかという事は随分考えました。

—— 大変な決断ですよ！

佐藤先生 やつぱり人間関係と言つのは凄く難しくなっていますね。我々の頃は、保護者が教師を陰で応援してくれていましたが、今は難しいですね。

—— 先ずは教師に対して尊敬の念という時代ではたからね。

佐藤先生 決断は絶対！すごい。

井上先生 普通科を作るといふのは、失敗したら絶対に残るわけですから。

—— ましては共学化。女子が入つて来るといふのがありますからね！

井上先生 初めは男子だけでやつたんですけども、それで普通科を作つても男子だけの普通科では…。中々男子だけだと難しいですね。

佐藤先生 女子も最初に共学にした時にたくさん集まるという話は聞いていましたが、そついう面でも遅かつたですけれど良かったかと思ひます。

—— 女子を入れると言つことで校舎も建て替えたのでしょうか？

井上先生 校舎については平成7年の阪神大震災を見に行つた事がきっかけです。ある年より以前に建てた建物は崩れ、以後に作られたものは問題がありませんでした。建築基準で違ひがでていたのです。それを目の当たりにし、怖くなつて、「建てよう！建てよう！」と。ただ理事長も色々手元の事もありませんから中々『うん』と言わないですけれども…

—— 理事長の真面目さで、ある程度の資金があつて実現したのですね。

井上先生 10年くらいかかりましたが、耐震補強すればいいじゃないかと。耐震補強については少しは補助が出るので。「それでもいい」と言つ意見もありましたが「いつまで持つかわかりませんよ！」という意見もありました。

佐藤先生 そこで建物診断をしました。診断の結果で第3校舎と第1校舎がついているところが建築上良くないといふことでした。あそこがバラバラになるといふ話が出てきました。

—— でも現実に壊してみると後何年持つかわかるのでは？

井上先生 実は壊した時に壊れ過ぎたんです。周辺からクレームが来ってしまうほど。「急にすつと地震が！」と。

佐藤先生 壊す方もそついう事にならないと思つて削つていたのに、それが起つてしまいましたから。

—— それは手抜きだったといふことですか？



すか？

井上先生 丁度オリンピックの高度成長期に建てられた校舎だったので、手抜きがあったんでしょ？

—— あつちもつちも建築ラッシュでしたからね。手抜きは当たり前のようにあったんでしょ？

佐藤先生 周辺には地下がある家もあるのでも、そこにビビが入って水漏れしたとか。コンクリートの塊が上から落ちてくるんだから凄いですよー今は上にパワースイッチのような重機で少しずつ壊していくでしょう。あのよう

な感じでいくと思っていたら…。簡単に落ちちゃって…。

—— 先生、見ていたのですか？

佐藤先生 あれは皆毎日見ていた。

井上先生 あれは楽しかったからね。

佐藤先生 だから他の建物もそのようにならないように、次の旧校舎からはちゃんと。

井上先生 それで建てたので、ある程度のメンバー以外非公表で女子トイレとか更衣室とかを設計の中に入れていきました。

—— 共学化の公表の前に女子の施設を設計にいれるわけですからね。

井上先生 それこそごまかすのに大変でした。「保護者も来校するのだから色んなことを言うて…。ともかくトイレはこういう形で上手くいったんですが…。

佐藤先生 普通科を作るとの話は、一部から反対があったりして、それらしきクラスを作ろうとか…

井上先生 大変でした。普通科を作るとい

3 大森町駅で臨時改札が生徒の署名活動で出来たのは、それは噂なんですか？

井上先生 あれはねーずいぶん前！

佐藤先生 小笠原くん！当時生徒会長の小笠原くんが署名活動をして…。

—— 今はどこの市議会議員でした？

井上先生 埼玉県の日高市の市議会議員。

佐藤先生 運動会の役員もやってくれたんだよね。

井上先生 それは昭和36年か37年だろう？

佐藤先生 37年38年ですね。

—— 私たちはその時はまだ入学してないですが…

佐藤先生 学校の生徒たちだけではなくて、大森町駅の近隣に住んでいる人にも署名活動していた。皆こちらにあれば便利になるからね。

—— そうですよー駅の向こう側しか改札が無かったですからね。

佐藤先生 うちの生徒が2人、特急列車にはねられてしまっ。

—— 私達のいた時にそういう事故がありました。

佐藤先生 あのような事故がいっぱいあると…

—— 渡っちゃうんですよ。遮断機を持ち上げて！

井上先生 そつ！

佐藤先生 それでも大変だったけれど助かったね！

井上先生 一年後に復帰して卒業したはずですよ！

—— そうなんですか？

佐藤先生 やっぱ高校生というのは凄いな！

—— 京浜急行からかなりのクレームがきたとか…。「お前は絶対にくぐって来るなよ！」って言われました。

井上先生 それはそつですよ！

佐藤先生 あれは大きな事故だったね。その前から小笠原くんはこのようなことが無いようにと活動していた。

—— 「こちら（学校側）にも臨時改札を」と活動されたんですね。

佐藤先生 小笠原くんというのは生徒会活動で相当活躍していたね。生徒会で他の学校を訪問したり、あつちやこつちと活動していた。新聞も出していたね。

佐藤先生 署名については、定時制の時事会とも連携してやっみたい。

—— そつすると電車にひかれた人は署名活動よりも…

井上先生 後

—— 後で引かれたんですねーその時は臨時口は出来てなかったのですか？

井上先生 出来ているけれどもそれは朝だけしか利用できなくて。この事故は昼間の下校時なんですよ。

佐藤先生 あれから大分経ってから、一日中利用できるという事になりました。

—— 僕が子供の頃に西口と名前が変わりましたから大分あとですよ。

井上先生 自動改札が入ってからでしょう。今ではなく、磁気読み取りの改札になってから。

—— 昨年の10月に全部電車が上を走る様になり、駅から学校が見えるようになりましたが、どうですか？

井上先生 夢のようですよ！

佐藤先生 他の学校の先生から「先生のところはいいですねー宣伝がタダで出来てーと言われるぐらいです。」

井上先生 本当に良く見えるー私も他の学校の先生から言われますよ。

—— 大森学園の看板が電気で点灯するのは、あれはタイマーか何かですか？

井上先生 そつーあれは暗くならないと駄目なんです。

—— あまり遅い時間だと消えてしまっているんですね。

佐藤先生 少し明かる過ぎて苦情が来てしまったから、いつまでも点けていられないし。

井上先生 そんな事ないと思うのだけれどね。別に赤いネオンじゃないんだからさ。

—— 青ですよのね。

佐藤先生 色々意見はあるだろうけども。

井上先生 青も良く見えるでしょう。あれも建築する時に私達ができるべく字を大きくして欲しいと希望しました。だって「大森学園高等学校」で出すって言うから。でも「大森学園」で大きくしてくれって。

佐藤先生 四文字の方が目立つでしょ！

—— そつですよ、良く見えますね。それでは時間が参りましたのでこの辺で終らせてもらいます。ありがとうございました。

もりこう会発足60周年に寄せて

会長 大谷正勝



会員の皆様には息災で活躍のことと拝察申し上げます。日頃はもりこう会の諸活動に暖かいご支援とご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

さて 本年度はもりこう会（以下本会と称す）「発足60周年の記念すべき年であります。本会は大森工業高校（現大森学園高校）卒業生の同窓会組織として昭和28年、佐成峰千代先生ご指導のもと、同期生の武藤清二氏（昭和27年電気卒・現在、本会相談役）と高橋秀夫氏のお二人が発起人・役員として活動を開始したのがスタートとお聞きしております。

皆様ご存じのとおり本会特徴の二つは、全日制課程定時制課程のいずれで学んだ方も纏って組織を一本化、同窓会活動を行っていることでもあります。

その反映でしょうか、総会後恒例の懇親

会では課程、学科あるいは年代を超えた人の輪があちこちらに出現し、みな和気あいあいと談笑する姿が見られますが、この和やかな光景は私達役員には喜びでありまた励みでもあり、この活動を支えるひとつの源泉となっております。この良き雰囲気は、本学園の設立に心血を注がれた初代校長・米澤勇作先生の慈愛溢れる教育思想を礎にした母校の良き伝統のうえに、醸成されたものと推察する次第です。

ここで本会60年の足跡を簡単に振り返ってみたいと思います。昭和28年春卒業生有志が集い第1回総会を開催、初代会長に遠藤源吾氏（昭和21年機械卒・在任期間昭和41年12月まで）を選出、前述の武藤氏、高橋氏らの活躍により会則等の制定が行われ、同34年秋には第2回総会、同39年1月には念願の同窓会会報創刊号が発行されました。同41年12月の第4回総会において二代目会長に友野藤男氏（昭和25年機械卒・在任期間平成14年6月まで）を選出、同43年9月には会報名を「もりこう」に改め第2号を発行しました。以降会報は先生方、会員の皆様のご協力を得て毎年の定期発行となり、紙面は回を追うごとに充実し、母校と会員間を結ぶ情報源のツールとしてその役割を担っております。また昨年からは時代の趨勢

にあわせ、会報に準じた情報の閲覧が本会ホームページでも可能になりましたことは、前号でお知らせしたとおりであります。

他方、昭和49年には同窓会活動の一層の充実を図るため、母校に教員として勤務するOBにより事務局が設置され、事務処理や学園とのパイプ役としての役割を担っていたいております。

平成14年6月総会では、永年にわたり本会発展に貢献された二代目会長友野藤男氏が退任され、菊池良幸氏（昭和36年機械卒・在任期間平成22年6月まで）が三代目会長に選出されました。その後、平成22年6月総会で菊池氏の後任として大谷（昭和36年電気卒）が四代目会長に選出いただき、役員の皆様とともに会運営にあたっております。

ホーム・カミング



もりこう会の皆様には、日頃より本校の

発足から60年、本会メンバーは半世紀以上に学窓を巣立った方から本年3月卒業の方まで、あらゆる世代を包含する一大同窓組織に発展いたしました。ここまで年輪を重ねることが出来たのも学園の諸先生、関係各位の温かいご支援と先輩役員各位のご尽力の賜物と深謝申し上げます。最後になりましたが、もりこう会は大森学園卒業生の心の拠り所の一つとして、その存在自体に大きな意義があると存じます。役員一同これを機に、引き続き先輩から承けたい本会の灯を絶やさず、点し続けてまいり所存でございます。会員の皆様には変わらぬご支援ご協力をお願い申し上げます。本会発足60周年に際してのご挨拶と致します。

校長 畑澤正一

教育に対しご理解ご協力をいただき心より感謝いたします。大森学園高校の教育向上のため同窓生・教職員一体となって取り組んでまいりたいと思っております。

もりこう会会報が今回よりホーム・ページ上に掲載されると聞いています。折角の機会ですので、学校の様子をお知らせ致します。平成19年に8階建の新校舎が完成し、旧校舎は実習棟と体育館だけになりました。内川に面した部分は建物がなく、明るくオーブ

んな感じの校庭（人工芝）です。同時に普通科（共学）を新設しました。約1000名在籍のうち普通科300人超（含女子100名）、工業科700名弱の編成です。工業科男子校時代とは校内の雰囲気が大分変わったような気がします。

最近の様子を書いてみます。

①体育祭や学園祭実行委員はクラス代表ではなく、自ら手を挙げた委員によって運営されています。各100名くらいの実行委員がクラスのため全体の為に知恵と体力を提供。

②ボランティア活動や地域活動への積極的参加。「車いすメンテナンス」「おもちゃの病院」「インターネット教室」「空飛ぶ車いす」各グループは地域に向け年間20日間以上活動しています。また生徒会や有志、クラブ員は大田区や大森地区のイベントに30日を超えて参加しています。奉仕活動（あえて言います）は他者のためであり、結果的には自分のためでもあると考えますので、学校としても活動機会をつくるなど応援しています。また、東日本大震災支援では、おもちゃの病院の手回しラジオや11年・12年連続で車いすの寄贈と現地での修理活動を行い、本年も実施予定です。

③学業にも力を入れています。本校の進学支援センターは夜8時までオープンし、日祝夏冬休暇も休まず開室。大勢の生徒が自習を基本にしっかり勉強し、その結果普通科大学合格実績が大いに上がり、工業科の大学受験・資格試験の合格実績も上昇しています。

④遅刻や挨拶にも大きな変化が出ています。

特に部活動の生徒達が良い方向に引っ張ってくれています。

さて、私立高校教員は異動がありませんがそれなりの年齢になると定年です。現在60歳前後の先生が10数人おられます。是非とも先生方と連絡を取り、元気がなうちに懐かしい顔を見せるなり、酒を酌み交わすなりして旧交をあためてください。

○グレートジャーニー（大いなる旅）

人類は500万年前に東アフリカで誕生した、と言われる。百数十万年前に、アフリカ大陸からヨーロッパやアジアを経て南北アメリカへ移動。アフリカ大陸から最も離れた南アメリカ大陸最南端に到達したのは1万数千年前。移動距離は5万キロメートルだった。

500万年前、類人猿にそっくりのヒト系統の生き物がチンパンジー系統から分離した。言葉を話せるようになり、行動も進化してからようやく人類は5万年前にアフリカを脱出（出アフリカ）することができた。その数はわずか150人程度だった。アフリカを出発した現生人類は紅海南端を渡ってアラビア半島に入った。やがてインドに達すると、アジア南東部を海岸沿いに移動しオーストラリア大陸に。他の集団は北西に陸路を進んでヨーロッパ大陸に入り、ネアンデルタール人とのなごい闘いが続く。放浪生活を続け3万5000年もの間一か所に落ち着くことはなかった。そして日本人がこの列島にやってきたルートに、3つの説がある。（続）

2013.4

（参考）「5万年前ーヨーロッパ・ウエイト著

「グレートジャーニー」

「新グレートジャーニー日本人の来た道 関野吉晴著

早いもので私が大森学園（大森工業高等学校と大森学園高等学校）にお世話になり四十年が過ぎ去りました。

皆さんに関係する事では、何かがあるたびに、バリカンが大活躍。校内や郊外でうさぎ跳びをした事。また、昨今有名になった暴走族が大森地区でも大活躍をしていて、校内または校舎内で爆竹を投げた暴走、授業をしている時に学校の廻りを暴走。私は大森町に住んでいたため、教頭先生に言われて夜に暴走族集會場に行き、先程の行爲をしない様に十時頃から話をした事や、昔の校舎は道路に面していたので、窓から牛乳ビンが通行人の直ぐそばに落下して通行人が事務所に怒鳴り込んで来たが、生徒が素直に申し出て、故意ではない事が分かり、素直に謝り上手く話がまとまることか。また、大森町の駅にて、生徒が電車から出る時に殴られ、顔を腫らして来たので、指導部の先生方で駅に行き、相手を現行犯で確保し警察にお願いしたのかも有りました。

卒業生の皆さんは私の事を、最初はキチガイ・鬼・シゴキ人と呼び、現在は山下先生・ヤマジイとなりました。なぜこの様な呼び方になったと申しますと、私が受け持っていたバレーボール部員が四十名いたので、頑張れば頂上に登れるかなと考え、バスから始まり階段を一步一步登って行く時に練習時間が四

あの先生は今



時間となり、当時は定時制があり五時四十分は全日制の生徒は完全下校となっていました。私は定時制の授業を受け持っていたので、定時制が終わるまで校外の空き地や池上本門寺にてトレーニングを行い、七時に帰ってき体育館での練習なので、終了が十時となり、長時間の辛く厳しい練習でしたので、そう呼ばれる様になりました。その後バレーボール部は生徒再生工場・厚生施設とも呼ばれたが、生徒は頑張り関東大会に四回も出場致しました。チヨット道を外れそうになつた生徒のお手伝いをもさせて頂きました。

若い頃は無茶をした様に思いますが「まっすぐに、進んでほしい」との考え方でした。当時は野球部が東京都で準優勝、レスリング部が全国に常時出場など他の多くのクラブも頑張っていましたので、私も頑張れたのでしよう。

私は現在も元気に追っかけをしています。健康で有る事は素晴らしいと考えています。君達も若さを過信しないで健康に注意し生活して下さい。

最後に、卒業生のご父母の皆様・卒業生の皆様・教職員の皆様のご指導・鞭撻により無事に勤務する事が出来ました。本当にありがとうございます。の感謝の気持ちでいっぱい입니다。

山下博

もりこう会 60周年メッセージ

もりこう会相談役

昭和27年全日制電気通信科卒

武藤 清一



3年在学中の頃

もりこう会も発足して早や六十年がたちました、発足時に佐成先生と須田先生から同窓会を作るからとの話があり、私と高橋秀夫君が手伝つことになり第1回の同窓会は昭和二十八年に実施することになりました。当時は電話のある家庭はなく、商店や工場を経営している家だけ電話があった時代で連絡方法は今日とは相当の違いであった。打ち合わせのため学校へ夕方集合して、日程及び行事内容予算集金方法を検討し両先生のもと、卒業生名簿により、ガリ版刷りのハガキで、お知らせを発送。当日の役割は、私と高橋君が受付と、当日会費の集金係を担当しました。同窓会の内容として会則の作成。特に会計取扱規則の必要性があり、私共二人が会計取扱規則を作成して、会計を担

当する様佐成先生及び須田先生から依頼されその後同窓会との長いつき合いが始まりました。もりこう会会員の中に当校卒の先生が何人か出来て同窓会はこの先生方の協力で現在の運営が成りたつていていると思います。

もりこう会相談役
昭和24年定時制機械科卒

神 秀弘



私は、昭和十九年大森工業学校入学、二十五年大森工業高等学校定時制の卒業生です。現在八十二才になり、多少記憶が遠くなつてしまいましたが、活動した当時の思い出を書いてみました。本校同窓会は記録によると昭和二十八年に、私より二年先輩の遠藤氏が会長として発足したようですが、この頃の活動については、全く解りません。昭和四十二年、私と五年生で同期であった友野氏が会長になり、力を貸して欲しいと誘われて、常

任幹事を引受けることになりました。当時の常任幹事会は、議題について報告を受けたり、意見の交換はするけれど、実務については本校教職員で構成する事務局に、一切任せていたような状態でした。平成元年、副会長に選ばれた際、このような状態では会の発展はないと思ひ、次のような提案をしました。①会の運営、名簿の管理、活動方針を受け持つ総務委員会、②会計報告・予算案作成等会費に関することを受け持つ財務委員会、③会報の発行・会の活動を広く会員に知らしめる広報委員会。以上の専門委員会を作り、役員全員で分担し、会長がこれをまとめるということにし、全員の賛同を得ることができました。以後活動が活発になり、現在に至るまで更に発展を続けていることは言うまでもありません。もう一つの思い出は、本校創立五十年を記念して、もりこう会が創り上げた「潮の光奨学金」です。友野会長より、一千万円を基金として、「何らかの事情により、保護者が学費を支払えなくなった生徒」を救済する奨学金制度を、会で創りたいとの提案があり、役員一同賛成し、行動することになりました。私は都の学事部に相談に行きましたが、他校同窓会では、学問やスポーツ等で優秀な生徒への奨学金はあるが、もりこう会のような主旨の奨学金は例がないとのことでした。又、基金も少ないため、税法上不利であることも判りました。そこでもりこう会顧問の須田先生を含めた役員と、学校側理事長と話し合いの場を持ち、税法上も運営上も、卒業生の基金による学校の奨学金制度にすることが有利である、との結論に達

しました。そして校歌の節をとって「潮の光奨学金」と命名したのです。もりこう会としては、卒業生をはじめ、基金の主旨に賛同して下さる企業や個人から、広く献金を集め、平成二十四年には、基金は四千万円を超え、該当した生徒は三十二名になりました。尚一層の発展のため、会員の皆様にはぜひご協力をお願い致します。最後になりましたが、今後のもりこう会には、女子の会員も多くなると思いますが、ぜひ役員を引き受けて、女性特有の行動力を発揮して、より一層会を盛り上げて頂ければ幸いです。以上



昭和30年頃の校舎

卒業生便り

森工で学んだ実力と誇り

昭和36年3月全日制電気科卒業

永合政一



私は1924年、東京中目黒で誕生、父は当時森工近くの戸越銀座で電球製造経営、1942年大森工業電気科卒業と同時に富士電機川崎工場入社、後半10年間は本社に勤務、通算41年間富士電機に勤務し60歳で定年退職しました。ところで、今回の新校歌の2番は大変に感動を致しました『・・・勇気を持って未来を開き豊かな実りを社会に生かし日本の力広く試そうはばたけ世界へ』とありました。今回この原稿を書くにあたり対象がOBか学生なのか、はっきりしないため、ある程度、抽象論で書きましたことを、まずご承知頂いた上で、次にまとめます。大森工業高校時代に真面目に学

習したことが、会社に入ってから全部、実践の場で基本的な力となって活かされたこと。そのことを大変に母校に、感謝しています。例えば電気理論、火力、水力、原子力発電、自動制御理論、電動応用工学などは、会社でも一流大学の人と仕事をしましたが、決して負けなかった、これも、森工の時代の学習の基礎が大変に大きかったと思います。退職後は地域で多忙な日々を送っています。そんな中で、最近、自身の健康の問題が発生、ある大病院に150回を超える通院となりました。しかし、お陰様で回復して今は検査での通院です。少し暇が出来、普段余り整理出来なかった書類を整理していたら母校の同窓会の会報を目にして、立派な校舎と校歌に触れ、感謝の気持ちが沸き筆取った次第です。今は、茅ヶ崎市から任命され赤松町の防災リーダーとしての任を頂いておりますが、やはり当時の学校で学んだこと、会社で学んだことがすべて活かされています。まだまだ沢山書きたいことがあります、800文字という制限を頂きましたのでこの辺で失礼します。

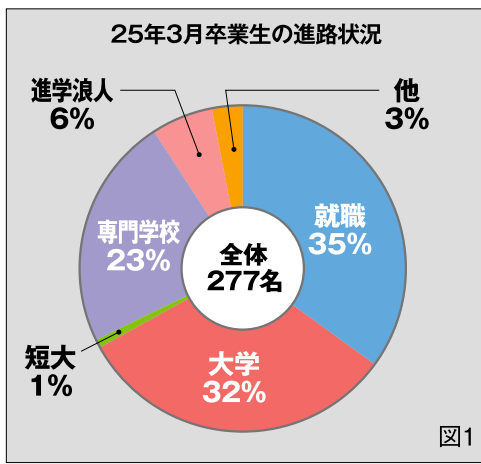


平成24年度進路報告

進路指導部長 石川和弘

同窓生の皆様におかれましては、日々活発にご活躍されていることをご推察致します。本年度より進路指導部長を務めさせていただきます石川和弘と申します。生徒たちのよりよい進路実現のため日夜努力していく所存でございますので、皆様も後輩の頑張りを見届けてあげてください。

さて、大森学園高等学校進路指導部より昨年度の進路状況をご報告させていただきます。



全体で277名が卒業しました。就職35%、4年制大学32%、専門学校23%という結果でした。普通科設置に伴い進学を希望する生徒が年々増加しております。(図1)

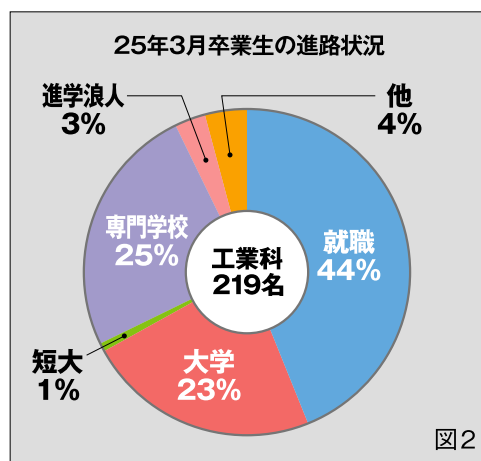


図2

工業科は219名の生徒が卒業しました。就職44%、4年制大学23%、専門学校25%という結果でした。全国的に就職難は続いており、地方の優秀な生徒が都心の企業を志望したり、また、大学生が高校生の求人に応募してきたりと、都内高校生にとっては厳しい就職戦線となりました。それでもほぼ100%の就職成率は変わっておりません。(図2)

普通科は58名の生徒が卒業しました。昨年はより上位大学を目指す生徒の割合が増えています。一生懸命に努力をした結果の再挑戦ですので、来年度の結果に

平成23年度卒業生 表1

大学名	文系	理系
上智大学		1
立教大学		1
法政大学	1	
学習院大学	1	
東京薬科大学		1
芝浦工業大学		1
駒澤大学	1	
東洋大学	2	

は大いに期待がもてると思われれます。(図3) 主な進学先は表1をご覧ください。

関東近辺での国公立大学や、早稲田・上智といった私立では最高峰の大学にも一般受験で合格者を出すことができました。生徒たちは、土日祝日、春夏冬休みも学校へ来て、SSC(進学支援センター)で日々努力をしておりました。入学時の成績では考えられない入試結果となっております。「強く願えば夢はかなう」、「努力は人を裏切らない。」普段生徒によく使うこの言葉に確信が持てる1年でした。(表1・2、3主な進学実績)

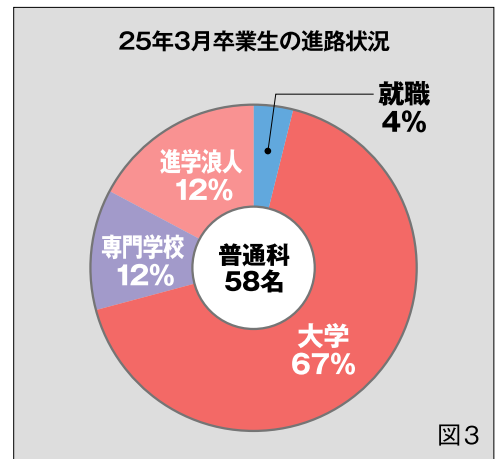


図3

平成24年度卒業生 [私立]

表3

大学名	文系	理系	大学名	文系	理系
早稲田大学		2	神戸薬科大学		1
東京理科大学		4	芝浦工業大学		2
明治大学	1	5	東京都市大学		1
青山学院大学	1	1	日本大学	2	5
立教大学	1		駒澤大学	1	
中央大学	1	3	専修大学	2	
法政大学		2			

平成24年度卒業生 [国公立]

表2

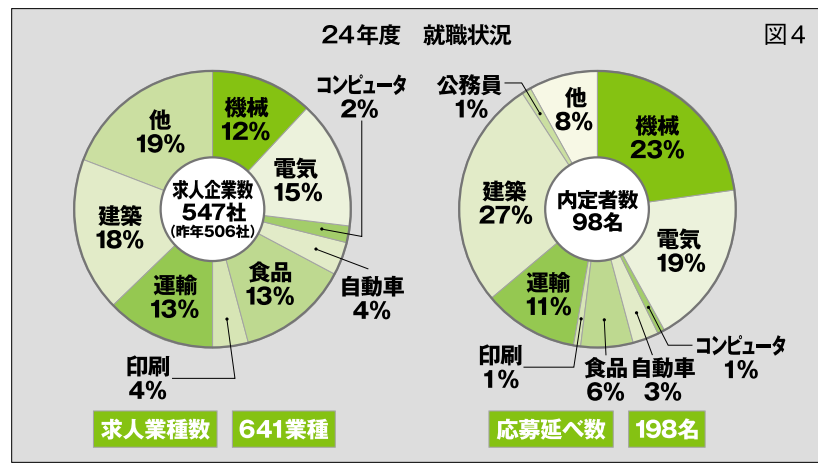
大学名	文系	理系
山形大学		1
長岡技術科学大学		1
電気通信大学		1
横浜国立大学		2
横浜市立大学	1	
山梨大学		2
長崎大学		1

就職に関しては厳しい状況が続いており、昨年度より学校へ来る求人数は増えていますが、職安の方のお話ですと、今年度は横這い状態であろうということです。本校の

就職に関しては厳しい状況が続いており、昨年度より学校へ来る求人数は増えてい

は、昨年度より新たに普通科普通総合コースが新設されました。我々進路指導部といたしましても、より多様化する進路希望に対処できるように準備を進めていかなければと思っております。新規就職先の発掘(普通科女子生徒への対応)、指定校推薦枠の拡充等、課題は山積みですが、進路指導部スタッフ一同一丸となって頑張っていきます。同窓生の皆様にもご助力をお願いすることが多々あるかと存じますが、その節はご協力のほどよろしくお願い致します。

は、昨年度より新たに普通科普通総合コースが新設されました。我々進路指導部といたしましても、より多様化する進路希望に対処できるように準備を進めていかなければと思っております。新規就職先の発掘(普通科女子生徒への対応)、指定校推薦枠の拡充等、課題は山積みですが、進路指導部スタッフ一同一丸となって頑張っていきます。同窓生の皆様にもご助力をお願いすることが多々あるかと存じますが、その節はご協力のほどよろしくお願い致します。



主力である、製造分野での求人の減少が気になるところです。(図4)

訃報

田尻正人先生



旧職員の田尻正人先生が平成二十五年四月十五日、享年七十二歳で、永眠されました。先生は昭和三十一年四月、本校電気科実習助手に、同四十一年四月より電気科教諭として四十年にわたり勤務されました。先生は進路指導にも力を注ぎ多くの卒業生を送り出し、部活動ではサッカー部顧問として指導にあたられました。また同窓会(もりこう会)では事務局長として、会発展の翼を担っていただきました。ここに謹んでご冥福を、お祈り申し上げます。

もりこう会ならびに奨学基金へのご支援ご協力のお願いについて

会長 大谷正勝
役員一同

もりこう会には、日頃より温かいご支援とご協力をいただき、厚くお礼を申し上げます。
 本年もここに関係各位のご協力により、会報 43 号をお手元にお届けすることが出来ました。
 本会では、その他ホームページの運営、総会、懇親会の開催するなど、様々な活動を通して母校の現況、卒業生間の交流、消息等をお知らせ致しております。
 これからも、会報やホームページの活用と総会、懇親会などを通して、情報提供や各種の催しに積極的に取り組んでまいり所存です。今後とも、よろしくお願い申し上げます。
 さて、本会では会報送付時、本会へのご寄付ならびに「潮の光」奨学基金へのご支援をお願いしておりますが、これに対して会員の皆様からは、毎年温かいご支援、ご協力をいただいております。ここに改めて皆様のご厚情にお礼を申し上げます。
 就いてはこの度も、経済社会環境の厳しい折、誠に恐縮ではございますが、倍旧のご支援ご協力を賜りますよう、役員一同心よりお願い申し上げます。

平成24年度 もりこう会 決算書 (自:平成24年4月1日~至:平成25年3月31日)

収入の部

科目	予算	決算	差異	摘要
①1年学生会費収入	1,227,600	1,227,600	0	3,600円×341名(300円×12か月)
②2年学生会費収入	1,224,000	1,224,000	0	3,600円×340名(300円×12か月)
③3年学生会費収入	2,385,600	2,343,600	42,000	8,400円×279名(700円×12か月)
④寄付金収入	400,000	553,000	▲153,000	121件
⑤受取利息収入	15,000	5,134	9,866	普通預金・定期預金・有価証券
⑥過年度会費収入	0	3,600	▲3,600	
⑦雑収入	0	0	0	
当年度収入合計	5,252,200	5,356,934	▲104,734	
前年度繰越資金	4,766,301	4,766,301	—	
収入の部合計	10,018,501	10,123,235	▲104,734	

支出の部

科目	予算	決算	差異	摘要
①設備補助費	0	0	0	
②行事補助費	150,000	150,000	0	学園祭補助として生徒会へ
③課外活動補助費	300,000	300,000	0	校友会へ
④クラス会援助費	100,000	20,000	80,000	2件
⑤卒業記念品費	0	0	0	
⑥その他の補助費	100,000	0	100,000	
①会報発行費	2,300,000	2,264,745	35,255	印刷・郵送料含む
②総会費	400,000	365,699	34,301	懇親会費用
③アルムニ広場	100,000	86,894	13,106	学園祭(卒業生の広場)
④会議費	200,000	183,416	16,584	役員会食事代
⑤ホームページ維持費	100,000	78,960	21,040	サーバー年間契約料
⑥交通費	200,000	304,000	▲104,000	役員交通費
⑦事務局費	50,000	18,609	31,391	切手代・お茶代
⑧慶弔費	100,000	117,250	▲17,250	香典3件及び生花代3件 謝礼3件他
⑨キャリアセミナー運営費	180,000	157,080	22,920	
⑩雑費	50,000	27,368	22,632	寄付金振込手数料他
予備費	100,000	557,160	▲457,160	車いすボランティア被災地旅費補助
①同窓会維持積立金	500,000	500,000	0	
当年度支出合計	4,930,000	5,131,181	▲201,181	
次年度繰越金	5,088,501	4,992,054	96,447	
支出の部合計	10,018,501	10,123,235	▲104,734	



ご協力ありがとうございました

母校で活躍する 卒業生

母校に戻って

野球部コーチ 高橋 真里緒



昨年から理数科実験助手として勤めさせていただいております。高校時代に慣れ親しんだ母校ですが、この二年間立場も変わったこともあり、新たな発見・学びが多く、毎日勉強の日々です。このような環境で過ごしていることをうれしく思っています。

私が大森学園に入学したのは平成十七年、ちょうど学校名が大森工業から大森学園に改名された年です。当時の大森学園は、普通科の設置や新校舎への建て替えなど、新たに生まれ変わるうとしていました。私は野球部に入部しましたが、野球部も学校の変化にともないユニホームのデザインを新しくチームカラーは紫へ変更されました。新しく作られたユニホームを一期生として着ることができ、大変気持ちが高まった事を覚えています。

野球部に入部して以降、主将を務めたり、

怪我をしたり、様々な経験をしましたが、やはり一番印象深いことは、仲間とのつながりと先生方の教えです。私が主将という役割に悩んだとき、一緒に考え行動してくれた仲間、道を示してくれた先生方には、感謝してもしきれないほど支えられ、多くの大切なものをいただきました。そのような経験が高校時代にあったことで、私が指導者を目指すきっかけになりました。

現在私は、助手として働きながら野球部のコーチをさせていただいております。当然ですが、選手時代と今では立場が違い、指導者としての難しさがあります。選手時代は、自分の気持ち次第でいくらでも練習をすることができ、ある意味自分さえ頑張ればなんとかなるようなところもありました。今は違います。私が選手に伝えることできつかけを与える立場です。どのように伝えれば選手に伝わるか、伝えることの難しさをこの一年いつも感じていました。今思えば高校時代、先生方にたくさんきつかけをもらいました。それは、技術の面だけでなく心の面、人としてどうあるべきか、人間として成長できるきつかけも高校三年間の中でいただきました。先生はよく口にします。「技術だけではダメ、心と技術の掛け算だ」と。私は高校に戻り、そのことを強く実感しています。大学時代は精神的・技術的にもほぼ完成された選手が集まるのであまり気にしませんでした。高校生は違います。面白いもので、普段の練習に対する取り組み姿勢・気持ちはいざというときに結果として現れます。「どんなに技術があっても、心がなければその技術は活きな

い」母校に戻り学んだことのひとつです。

私が選手にできることは、大学で培った技術を伝えること、さらに人として成長できるきつかけを作ることです。私も未熟者で勉強

活躍している後輩たち

レスリング部

二年普通科二組 高橋海寿々



選手二名、マネージャー二名と増え一層明るくなりました。平成二十四

年度の主な成績は、男子・JOC 杯入賞、関東大会本選入賞、インターハイ入賞、全国高校グレコ選手権入賞、国民体育大会入賞、関東選抜大会入賞、全国選抜大会入賞と、二年を通して各主要大会にて上位に入賞しており、東京都予選では個人、団体共に優勝もしくは準優勝をすることができました。女子・ジュニアクイーンズ二位、JOC 杯二位、関東大会一位、アジアアカデット優勝、全国高校女子選手権二位、全日本女子オープン出場、天皇杯出場と、男子より大会は少ないですが、負けじと頑張っております。私は選手としてレスリング部に所属していて、二十四年度はあらゆる大会で上位に入賞す

中の身ですが、失敗を恐れずに真正面から選手たちにながつかっていきたいと思います。微力ではありますが、コーチとして、また卒業生として選手達を導けるよう精進します。

ることができました。特に七月のアジアアカデットでは、初めての海外遠征で日本代表として出場し、普段と違う緊張感をもって試合に臨むことができました。今回の海外遠征では、初めてだったので、結果より、その試合を思い切り楽しむことや、次に進むための経験として臨んだ大会でした。レスリング自体や、勝つこと、そして様々な国の人たちとレスリングを通して交流することを楽しみながら、全三試合勝ち、優勝することができました。この経験と結果は、日頃、自分を支えて下さっているまわりの人たちからの応援あつてできたことだと思えました。三月に卒業された一人の先輩から、最後にお礼を言われた時、私は本当にレスリング部でよかったと思えました。そして、これからも頑張ろうと思えました。このレスリング部で育んだ先輩や同級生への信頼を決して失わないよう、私に残されたあと二年間、精進していきたいと思えます。先輩がこの部に残された言葉に「感謝」という言葉があります。今の三年生の先輩の靴にも刺繍してあり、今の私たちに最も必要で大切な言葉です。私も、七月の経験をして、その本当の大切さが身に染みてわかりました。これからも、人に感謝し、また、感謝される人間になれるよう、レスリング部で育つて



先輩からのメッセージ
レスリング部

昭和47年電気科卒業
もりこう会副会長
東野武雄



いこうと思いま
す。最後に、今
年度は、男女共
全国制覇を目
指し、切磋琢磨
していこうと思
います。応援宜
しくお願い致し
ます。

私は在学中のクラブはレスリング部に所属
しておりました。当時は先輩がたの築いた伝
統に乗り、南関東大会第二回大会の団体戦
優勝、インターハイ団体・個人戦に出場、秋
の和歌山国体ベスト8と充実した部活動を過
ごしました。また、レスリングの試合で色々
な所へ行かせてもらい。卒業後ドライブ旅行
でそこを訪ねて行った事も良い思い出です。
現在、男子部員の活躍に加え女子部員も

入って活躍しているとよく聞きます。オリ
ンピック種目から外れるとの話もありますが、レ
スリングという競技がなくなるわけではないの
で、それぞれの大会に向け頑張ってください。
レスリング部も創部後50年当たりかと思いま
すが、これからも長く部活動が続いていくこ
とを願っています。ここ数年は4月末頃に横
浜文化体育館で開催されるJOCジュニアオ
リンピックカップに合わせてOB会を行っていま
す。そのときに在校生の皆さんの状況や活
躍の話を聞くのを毎年楽しみにしています。
そして在校生の皆さんが卒業してOB会に出
席し、お会いする日を待っています。

●ロボット研究部

ロボット研究部は、平成25年2月に東京都
立町田工業高校で行われた、高校生パフォー
マンスロボット競技大会に参加しました。

この大会は、走行部門とパフォーマンス部
門の総合得点で順位が決定します。また、
空き缶やペットボトルなどのリサイクル品を材
料に使用するという規定があります。

走行部門は、指定されたコース上をライ
ントレースして、走行の正確さを競います。2
分30秒で、ゴールできないと早くても、遅く
ても1秒に付き、1点減点されます。

パフォーマンス部分は、走行中にロボットを
動かし、パフォーマンスを見せ、5名の審査員
により、得点が与えられます。パフォーマンス
には、特に規定が無く、各チームのアイディ
アが問われます。

昨年は2チームで参加しましたが、今年
は1チームに、全員で集中して取り組むとい



う考えて、
「ウサギと
カメラ」と
いうテーマの
ロボットを
製作しまし
た。

「ウサギと
カメラ」とい
うテーマの
ロボットを
製作しまし
た。



●テニス部

平成24年度のテニス部は、3年生の引退ま
で約30名で活動しました。新1年生に経験
者が多く、上級生への良い刺激となりました。
公式戦で1つでも多く勝利することに加え、
集団としての成長も目標に、校外のコートや
学校で練習に励んできました。今年度も東
京都高等学校テニス選手権大会に出場しま
した。結果はふるいませんでしたが、その時
点での実力は出せたようです。

今年度も4月下旬から個人戦、5月中旬
には団体戦が控えています。過去最高の結
果が出せるよう、1人1人の心身の成長を
促していきます。今後とも皆様の応援、よ
ろしくお願いいたします。

クラブ活動報告



●野球部

現在野球部は3年30名、2年15名、1年
23名の計68名(女子マネージャー3名含む)
で活動しています。学校内ではサッカー部と
相談し場所と時間を分け活動していますが、
なるべく大田スタジアムや多摩川緑地、駒沢
球場を借りて外に出て練習しています。なお
4月より石黒コーチもスタッフに加わり、昨
年度よりコーチに就いた高橋コーチ(平成18
年度卒)と併せ2人のコーチ体制で指導に当
たっています。

昨年度の夏、東京大会は2回戦で日大
一高に残念ながら、0対3で敗れました。秋
の大会では1回戦東京学園を10対0、2回
戦、国際26対0とそれぞれ5回コールドで大
勝し、ブロック代表決定戦では中大附属を8
対0で取り10年ぶりに都大会出場を決めまし



た。秋の都大会は東海大高輪台、春の都大会は東海大菅生にそれぞれ初戦で敗れましたが、新入生を迎え、夏の大会に向け毎日練習中です。今年の夏も多くのOBの皆様

の応援を宜しくお願いいたします。尚本年度も6月22日土曜日に、川崎の日航ホテルに於いて野球部OB会を予定しています。1人でも多くのOBの皆様の参加をお待ちしています。



●卓球部
平成24年度は1年生が11名、2年生が8名、3年生が6名、計25名と多い人数となりました。3年生の中には初心者から初めて団体の代表に選ばれるくらい上達した生徒がいて卓

球を通じて自信を持ったことと思います。

主な大会は高体連の関東大会予選、インターハイ予選、国体予選など五大大会と私学大会、大田区大会(年3回)の二つでこの中には個人戦と団体戦が含まれるものもあるので多くの試合に参加する事が出来ます。また、練習内容ですが、基本練習を中心にを行っています。基本練習は初心者でも上級者でも必要で、卓球では確実性が要求されるので、まずは、フォアやバックなどをしっかりと打てることを目指しています。

また、卓球部では挨拶や先輩、後輩の上下関係などを理解させて社会でも通用するような人になれるように指導していきたいと思っています。

これからも、卓球を通して部員たちが成長してよりよい人生を歩んでいってほしいと願っています。今後ともご支援の程宜しくお願い申し上げます。

●科学研究同好会

科学研究同好会は平成24年度で発足してから3年がたちました。3年目となった本年度は非常に多岐にわたる活動ができました。まず、本年度は5月に大きな天文現象がありました。日本のはほぼ全域で観測できた金環日食がそうです。この一大イベントに合わせて子ども達と金環日食観測メガネ作成会を開きました。200名を超える参加者があり、部員も非常に有意義な時間を過ごすことができました。

さらに9月頃より中高生の科学部活動支

援プログラムとして害草スベリヒユの有活用を目指した凝集剤の調製を進めてきました。この研究は東京海洋大学からの指導を受けて行ってきました。そのため、生徒が大学生と共に実験を行う機会や、大学の教授・大学院生の話を聞く機会も非常に多くなりました。同じ高校生同士の研鑽ではなく、有識者や先輩の指導を受けることで一人一人の科学の世界観を広げることになりました。

その成果を3月にジュニア農芸化学会という全国大会で発表してきました。大学の教員だけではなく、他校の高校生とも研究テーマを共有することができ、さらに発展性の高い研究をめざす意欲も身につけることができました。

これからも様々な活動を行い、部員一人一人の科学的教養を深めるだけに留めず、多くの人に発信していく活動を活発に進めていきたいと思えます。

●サッカー部

現在、新1年生を含め70名近い人数が顧問4名、外部コーチ2名、OBコーチ2名(大学生)の体制下で活動しています。昨年度はインターハイ予選で都大会に進出したものの、リーグ戦、選手権予選ではあと一歩及ばず目標達成には至りませんでした。たくさんの方々に応援して頂いておりますので結果を出すことで恩返ししたいと思っています。OBはじめ学校関係者に元気をプレゼント出来るように、また「高校生らしく」深刺と活動していききたいと思います。今年の選手権では「西が丘」に立つー！

●男子バスケット部

◆部員 3年生：4名、2年生：16名、1年生：8名 計28名



◆顧問より 公式戦で結果が残せるよう、日々練習に励んでおります。現在の目標は22年度の都ベスト64以上の結果を出すことです。部活を通じて社会に出ても通じる人間力も鍛えています。応援よろしくお願いします。

●パソコン研究部

平成24年の夏休みに、コンピュータ教室の機材入れ替えが行われ、新型・新品の環境になりました。パソコン研究部の生徒たちは今までの環境では動作しなかった三次元CGのソフトやゲーム開発環境を使って活き活きとそれぞれの創作活動に励んでいます。娯楽コンテンツの溢れるこの情報化社会の中で、ただ受け身で過ごすのではなく自ら創作し、互いに切磋琢磨することで日々成長しています。画面の中のデータではありませんが、これは立派な「ものづくり」のひとつだと思っています。並行して行っている「高齢者のためのインターネット講座」は24年度は参加者希望者が少なく、あまり開催できなかったのが残念です。内容や募集方法を改良していきたいと考えています。

●バドミントン部

平成24年度は部員19名で活動してきました。試合結果としては、

インターハイ都予選男子団体ベスト32位。冬季ブロック大会男子団体（東ブロック）23位です。

ラリーが続くなかでも安定した体勢でショットが打てるように、これまで以上にトレーニングに力を入れていきます。

毎年、卒業生の皆さんが来て下さることは有難く、部員にとっても大きな励みとなっています。今年4月、体育館にバドミントンのコートができました。皆さんの期待に応えられるよう、部員一同頑張っていきたいと思えます。今後ともよろしくお願い致します。

●バレーボール部

24年度結果

インターハイ予選東京都大会都ベスト32位
関東私立高等学校バレーボール大会
Bブロック出場

全日本選手権東京都大会ベスト16位

私学大会 ベスト16位
新人戦 ベスト32位

今年も、昨年度と同様に苦渋をなめるような結果となりました。新チームになり、中々思うような結果を出せない状態が続きました。しかし、低空飛行ではありますが、浮上するきっかけが、この春休みの合宿でできたと実感しています。今年も新生が、八人入り長身者もいます。これから関東予選に向けて良いスタートが切れそうです。

今後これ以上の成績を収められるよう日々努力していきたい所存でございます。

今年度で今までバレーボール部に携わっていた山下先生が退職致します。今年度は是非でも、関東大会に出場したいと思っております。OBの方々も是非足を運んで下さい。ここよりお待ち申し上げます。

PS バレーボール部のブログです。よかつたら見てください。
<http://blog.goo.ne.jp/ojimadesu/>

●ブラスバンド部

ブラスバンド部は昨年度、1年生を迎えた合計16名で活動をスタートしました。決定的多いとは言えない部員数ですが、部員たち自身が意見を出し合って演出を考えるなど、この1年間さまざまな演奏活動をしてきました。1年間の活動を簡単に紹介させていただきます。

4月の入学式で昨年度の活動がはじまりました。先輩部員の必死の勧誘により新生8人が入部。6月の体育祭では、講師の中林先生の指導の下ドリル演奏を披露。7月は球場で野球部の応援をし、夏休みには普段の練習成果を試される吹奏楽コンクールに出場しました（銀賞受賞）。2学期に入るとすぐに、我々文化部にとって最大のイベントである



学園祭があり、ブラスバンド部は約40分間の時間を頂いてイベントホールのステージで演奏をしました。2月にはプロの演奏家の方々も参加する大田区吹奏楽連盟の特別演奏会に参加。3月の卒業式で入退場曲を演奏して1年の活動を終えました。

その他に地域の活動として、福祉作業所のふれあいまつり、大森町商店街のサマーフェスタに呼んでいただき、演奏をしてきました。昨年度もブラスバンド部の活動を通じて、部員たちは様々な年代・職業の方々とお話することができました。多くの方がブラスバンド部の活動を支えてくださりこのような活動ができたことに感謝いたします。新入部員を加えた今年度も、皆さまに喜んでいただけるような演奏活動をしてきたいと思えます。

●囲碁将棋部

囲碁将棋部は放課後を利用して週三回活動をしています。部員達は各々が得意とする

囲碁と将棋にわかれ腕を磨いています。またオセロなども行い、様々な人と対戦するようにしています。活動内容は主に対局することを中心に行っています。先輩後輩関係なく駒の動かし方や碁石の置き方など戦法を教え合い、切磋琢磨しながらも和気あいあいと楽しんでいます。大会にも出場します。昇級大会や団体戦などがあります。大会はとても刺激になり、初めての対戦相手に緊張し、勝ちや負けを経験することによっていろいろなことが見えてきます。部員一人一人が常に向上心を持ち、更に強くなれるよう頑張っています。

●剣道部

イベントホールの舞台上で毎日休まず竹刀を振って稽古に励んでいます。平成24年度は3年生1人、2年生3人、1年生2人の合計6人で活動していました。人数的には昨年とあまり変わりませんが、今年の1年生は全員経験者なので1からのスタートにならずにすみました。自分を強くしたいという向上心にあふれていて、練習メニューを生徒たち自身で改良するなどの工夫が見られたことが、大変喜ばしい成長です。

生徒一人一人が、成長の実感を持ち、人間的に強くなって卒業できるように、日々指導しています。まだまだ試合で勝てるほどではありませんが、生徒たちの前向きな気持ちを大事にしていきたいです。OBで稽古をつけていただける方がいらっしゃいましたら、ぜひお願いいたします。

これからも頑張りますので応援よろしくお願致します。

●自動車部

●WORLD GREEN CHALLENGE 2012
ソーラーカーラリー（旧 W.S.P.R.秋田）

7月28日（土）～31日（火）に自動車部が秋田県大潟村で行われたソーラーカーレースに9年ぶりに出場しました。1日約8時間を3日間走行する過酷な競技で車両・人にも耐久性が求められるレースです。今までの最高記録は29周725kmを走行しましたが、今回30周750kmを走行しクラス4位になり表彰台まであと一歩となる成績でした。

1日目	5周	総合 8位
2日目	13周	総合 8位
3日目	12周	総合 5位
合計	30周	総合 7位

参加台数18台中

大会ホームページ

<http://www2.ogata.or.jp/wgc/2012wgc/car/index.htm>

●Honda ECOMILETT チャレンジ2012



9月15日(土)・16日(日)に自動車部が栃木県ツインリンクもてぎサーキットで行われたエコマイレTTチャレンジ『1&のガソリンの走行距離を競う』に出場しました。今回の大会は学校として26回目の参加になります。今回はオリジナルの燃料噴射制御装置をつけて大会に臨みましたが、昨年度より記録を伸ばすことができませんでした。

グループII 高校生クラス 150台中
 089km/ℓ 19位(キャブレター)
 704km/ℓ 36位(インジェクション)
 大会ホームページ
<http://www.honda.co.jp/Racing/emc/history/national/result2012/>

応援いただいた皆さまに心からお礼申し上げます。より上位を目指して2013度の大会に挑みたいと思っておりますので、今後も応援よろしく申し上げます。

●柔道部

24年度は60kg級、73kg級を主体とした軽量の選手が多く無差別の団体戦では非常に厳しい状況でスタートいたしました。4月に行われた関東大会予選では、軽量級主体のチームながら1年生の活躍により支部大会4位という結果を残すことが出来ました。6月に行われたインターハイ予選では健闘したものの重量級のチームに力及ばず支部敗退。

夏以降は3年生が引退し、新チームは2年生が3名。1年生も軽量ながら粘り強い選手が多く期待が持てます。合宿も群馬へ遠征し関東近県から集まる強豪校と練習を重ねてきました。また、埼玉や千葉へ遠征を重ね、経験と場数を踏ませることを中心に練習を行いました。結果として10月に行われた東京都学年別大会では、1学年、2学年ともに東京都大会出場。11月に行われた支部新人戦では団体でベスト8、個人戦では55kg級で準優勝するなど確実に力をつけました。

今後は新入生を向かえ、4月の関東大会予選、6月のインターハイ予選へと稽古に励んでいきたいと思っております。今後も応援よろしくお願いいたします。

●鉄道研究部

第4回全国高等学校鉄道模型コンテスト・3年連続特別賞！

平成24年8月17日(金)・18(土)の2日間、東京ビッグサイト西3ホールで行われた全国高等学校鉄道模型コンテストにおいて、3年



連続特別賞を受賞しました。今回はさらに参加校が増え全国から95校が参加しました。今回の作品は曲線(カーブ・レール)を取り入れた模型化

に挑戦し、候補地を取材し資料収集などを積み重ねてきました。製作期間は4か月程、大会前日までかかりました。作品の特徴はすべて高架線路であること。

作品ボードを高架線路にするためにボードを加工するところから始まりました。今回のテーマはJR鶴見線・国道駅周辺を模型化しました。建物の中にはLEDを配線し夜の雰囲気も表現しています。学園祭で展示しますのでご覧ください。

●陸上競技部

3年生2名、2年生3名で活動しています。少人数ではありますが、やり投・走幅跳・ハードル・中長距離・短距離の5種目に分かれて練習をしています。チーム競技では、駅伝に出場しました。昨年度は、惜しくも数年ぶりに東京都大会に出場する選手がいませんでした。今年は1名でも多く東京都大会で勝負することが出来る選手が増えてくれることを願っています。また、リレーなどのチーム競技でも東京都大会出場を目指しています。今後とも応援をお願い致します。

編集後記



広報委員長 勝島憲三

今回初めての試みとして井上、佐藤両先生にご協力をいただきインタビュー記事掲載致しました。お読みになったご感想をお寄せいただければ幸いです。

さて、話は変わりますが新聞報道によると区内の30社を超える中小企業(代表細見氏)が、ソチ五輪のボブスレー競技用「ソリ」を製作すべき国産化プロジェクトを立ち上げ町工場の技術力を示している事を知りました。以前はドイツ製の中古品を使っていたとの事でしたが、物作り日本の為にも是非好成績を残して貰いたいものです。

さて、今回からご承知のとおり会報は従来とおりのものとHPでも閲覧いただけるようになりました。是非活用をお願い致します。この度も多くの方々にご協力を頂きました。役員一同心より厚く御礼申し上げます。